

下野市内におけるクビアカツヤカミキリの被害状況について

1. 栃木県内のクビアカツヤカミキリ被害の状況について

(1) クビアカツヤカミキリについて

- ・原産は中国、台湾、朝鮮半島、ベトナム北部などの外来種である。
- ・成虫の体長は約 2.5 センチから 4 センチで、全体的に光沢のある黒色、赤い胸部（首）が特徴である。
- ・サクラやモモ、ウメなどの樹木の内部を食い荒らし枯らしてしまう。
- ・成虫は幹や枝の樹皮の割れ目などに産卵。幼虫は樹木内部に入り込み、1～3 年かけて樹木の内部を食い荒らす。食害する 3 月～9 月頃、大量のうどん状のフラス（木くずと糞の混ざったもの）を樹木の外に排出する。2～3 年で成虫となり、樹木の外に出てくる。

フラス：幼虫が排出する、木くずと糞が混じったもの

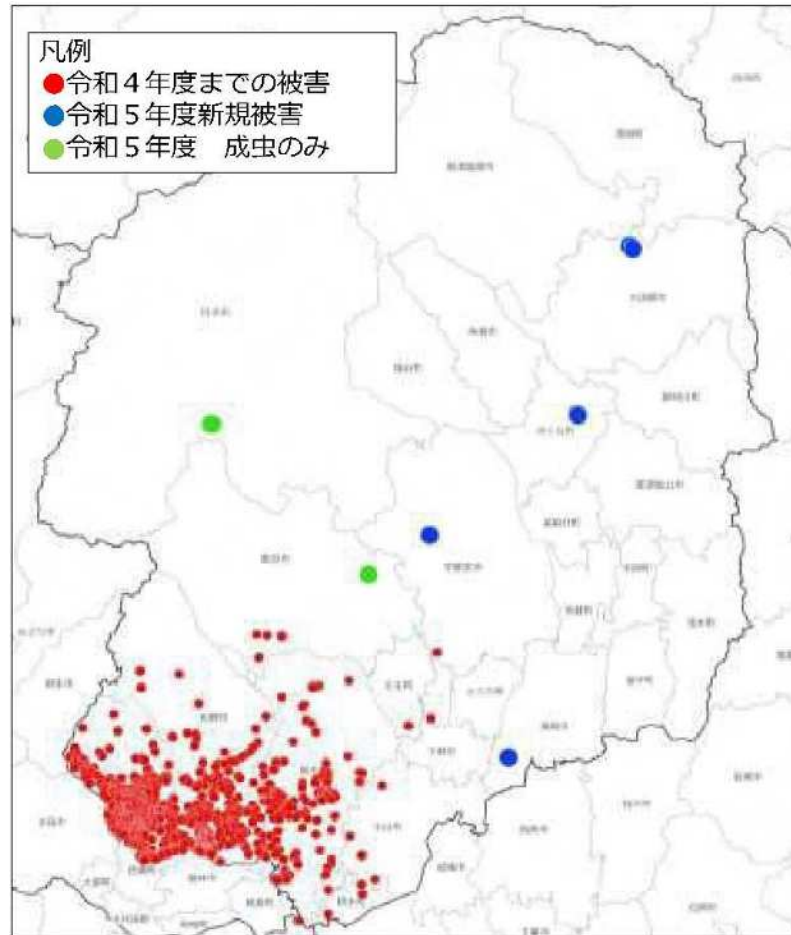


(a) 株元に大量に積もったフラス。パラバラした粉状になることもある。
 (b) フラス排出部分の拡大。フラスは「うどん状」になることが多い。
 (c) 被害が進行し、樹皮が剥がれ落ちた樹木。

(2) 県内の被害状況について

- ・県内で被害が確認されている樹種は、モモ、スモモ、ウメ、プルーン、アンズ、サクラ、サクランボ、アーモンドである。
- ・落枝、倒木等による人的被害のおそれとともに、農作物やサクラ並木などに被害が拡大している。
- ・令和 4 年度に、足利市、佐野市、栃木市、小山市、壬生町、野木町、宇都宮市、鹿沼市、さくら市、下野市の計 10 市町で被害が確認されている。
- ・令和 5 年度には宇都宮市、真岡市、大田原市で新たに被害が確認された。さくら市では令和 3 年度に被害木を伐採したが、新たに被害が確認された。日光市、鹿沼市北部では成虫のみ確認された。

栃木県におけるクビアカツヤカミキリ被害確認箇所



2. 市内におけるクビアカツヤカミキリ被害状況について

- ・ 令和5年度 市城南西の公共施設において被害木 15 本確認（フラス）、伐採処分済
- ・ 令和6年度
 - 5月下旬 前年度確認した付近のサクラでフラスを確認 13 本
 - 5月31日 各公共施設において管理している樹木(サクラ・ウメ・モモ・スモモ)の確認を依頼。
 - 6月 被害木 8 本、成虫のみ確認（歴史館）
 - 7月 被害木 6 本確認

※被害木においては、栃木県「クビアカツヤカミキリ防除対策マニュアル改訂第4版」に基づき、ネット巻き、薬剤注入を実施

3. クビアカツヤカミキリに関する周知について

- 4月 自治会長連絡協議会でチラシ・防除対策マニュアルを配布
ホームページ更新
- 7月 広報掲載、窓口にクビアカツヤカミキリ標本設置

